

高校生の活躍

総合家庭科の魅力く地域と共に紡ぐ伝統く

山口県立厚狭高等学校 教諭 津村 佳子



本校は、本年創立148年を迎えた歴史と伝統を誇る学校です。総合家庭科では「スペシャリストの基礎を育む学習指導」に重点を置き、家庭科の学習で身に着けた知識や技術を活用し地域の活性化に向けた研究活動や様々なコンクールへのチャレンジをおして、その力を高め、自らの夢の実現に向けて日々努力を重ねています。

その取組の成果として、今年度も3年の山本陽菜さんが第27回全国高校生クリエイティブコンテストで全国2位にあたるクリエイティブ賞を受賞することができました。



クリエイティブ賞受賞作品

12月に東京で授賞式が開催され、会場には創造力豊かでハイレベルな作品が並びましたが、その中でも本校生徒の作品が輝き、多くの方から直接賞賛のお言葉をいただいたことは本当に感激でした。作品の制作は2020年の12月頃、コロナ禍の中、例年より遅れてスタートしました。2021年の全体のテーマ

「tsunagu」から生徒一人ひとりが連想して自分なりのテーマを決め、その想いをデザインで表現しました。受賞した山本さんは、制作前の授業でのプレゼンテーションで「今まで学んできた技術の積み重ねを雪に例え、見てくださる方には努力と成長が伝わればよいと思う。感謝の気持ちを伝えたい。」と発表し、彼女の想いに感動したのを覚えています。



全国高等学校クリエイティブコンテスト応募作品作成

制作では、県外への移動が制限されたため、自分のイメージに合う布が手に入らず、ほとんどの作品は自分で布を染めました。本校ではこれまで、防府市富海の藍染工房「草衣so」などの協力を得て、藍の栽培、すくもの加工、天然灰汁醗酵建ての藍染に挑戦しています。藍染は環

境にも人にも優しく、何より化学染料では出せない美しさがあります。生徒はその魅力を感じ、進んで多くの作品に取り入れていました。

作品の制作で一番の要は手芸技法です。自分の思いをデザインや技法で表現しますが、先輩方の作品の技法は本当に素晴らしい、皆が敬意を払い目標として取り組みました。地道な作業の積み重ねで、先が見えず辛く苦しく感じますが、少しずつでも出来上がった時の喜びと、1年生から検定の取得で身に付けた集中力、忍耐力があるからこそ何とか乗り越えることができると思います。今回受賞した山本さんの作品は、彼女の想いや積み重ねた努力が見る人に伝わる素晴らしいものでした。完成し試着した時、仲間から称賛の声が上がった時の嬉しそうな表情は忘れられません！仲間と励ましあい、試行錯誤しながら完成した時の達成感、これが生徒にとって一番の宝物だと感じます。指導者として生徒が辛いときに上手く支えられなかったことも多くあり、後悔が絶えませんが、「生徒のできる力を信じて支えていくこと」を忘れずにいたいと思います。

また、他校との連携事業も作品作りに生かすことができました。県教委の事業である「やまぐちハイスクールブランド創出事業」でTOKYO2020大会を応援するため、柳井商工高校、周防大島高校と共同開発した「2020 縞」と名付けた柳井縞織物でネク



藍染

タイやバッグなどの商品開発を行いました。厚狭高校は糸の藍染めと縫製を担当しており、柳井縞の魅力を全国に発信するため2020縞も今回の作品に取り入れた生徒が多くいました。

さらに、厚狭高校では専門分野の講師（和裁、洋裁、編み物、藍染、布花）をはじめ、多くの地域の方の協力を得て学習が成り立っています。「厚狭高校のために少しでも力になりたい。」という有難いお言葉をいただくことも多く、改めて地域の皆様には心より感謝申し上げます。

厚狭高校での学びが地域の方と豊かな瞬間を積み重ねて紡ぐ伝統になるよう努力してまいりたいと思います。

最後になりましたが、一番に生徒を想い支えてくださった保護者の皆様に心より感謝を申し上げます。家庭での愛情が一層紡がれていくことを心から願っております。



外部講師による学習（洋裁）



検定（和裁）



柳井縞のネクタイの縫製

地域を舞台に活動する文化部！ 山口県立萩高等学校

全ての高校がコミュニティ・スクールとなっている山口県では、多くの高校が地域貢献活動を展開しています。

今回は、地域に元気をとどける萩高校の文化部の活動の様子を紹介します。

科学の面白さを
伝えたい

科学部

萩わくわく科学クラブ運営委員会主催講座の一環として、小学生対象の「わくわくミクロワールド」を萩高校で開催し、学校のビオトープに生息するプランクトンの観察や実験のアシスタントを務めています。

ほとんどの小学生にとって顕微鏡操作は初めてで、生きて動いているプランクトンを見て、歓声があがっていました。



維新の偉人
を伝える

新聞部

萩市内の歴史探索イベントで、史蹟等の紹介をしています。「子どもが学ぶ

松陰先生」では、小学生にわかりやすく、また、楽しんでいただけるよう、スケッチブックを使ったり、寸劇風にしたりするなどの工夫をし、「涙松」では、松陰先生が妹たちに送った手紙を自分たちなりに解釈して紹介しました。

大人が参加する「松陰の道歩行大会」では、吉田松陰と久坂玄瑞との間の手紙のやりとりを取り上げるなど、一歩踏み込んだ紹介をしました。



歌声で地域に
元気を届ける

合唱部

私たちの活動の舞台は、ホールだけではなくありません。小学校の日曜参観や美術館などの文化施設、萩マルシェなどのイベント等で、萩高伝統の美しいハーモニーを地域にお届けしています。コロナ禍の中で開催した文化祭での

リモート合唱は、県内高校の合唱部員のリモート大合唱（NHKで放映）や「二〇〇万人の花は咲く」ミュージックビデオを作ろう！」（同じくNHK）にもつながりました。

小規模化に加え、コロナ禍で、合唱ができなくなっている小・中学校も多いと聞いています。私たちの地域での活動を通して、地域の小・中学生に歌うことの楽しさを伝えていきたいと思っています。



保育園で
英語の人形劇

英語研究部

「シンデレラ」を英語で上演しました。ガラスの靴や登場する動物などを英語で言ってみる練習をして、さあ本番です。劇の途中では、高校生の後について、大きな声で言ってくれました。

終了後の園児達は人形や背景に興味

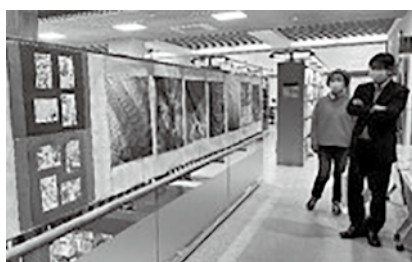
津々。実際に手に持って高校生がしたように動かしていました。小学校からはじまる英語に興味をもってくれたようです。



市立図書館に
作品を展示

美術部

美術部や美術の授業で制作した絵手紙や版画、本藍染めのハンカチや地元の竹紙を使った工芸作品などを、定期的に萩市立図書館で展示しています。



保育園で
防災教育

JRC部

幼稚園・保育所向け防災教材「ぼうさいまちがいさがしきけんはつけん！」や、日赤からお借りした「まちがいさがし」、自作クイズなどで、避難

時に大切な「お（押さない）は（走らない）し（喋らない）も（戻らない）」を強調して、地震発生時の行動についてお話ししました。園児のパワーに圧倒されながら、にぎやかな講習となりました。



また、スポーツ系女子部員は、海と日本プロジェクト「スポGOMI甲子園」決勝大会に出場し、漂着ゴミが散乱する世界遺産

の恵比須ヶ鼻造船所跡地に近い防波堤周辺でゴミを集めまくり、リモートの部全国2位になりました。



離島ミニコンサー
トを計画中

吹奏楽部

コロナ禍前は、阿武町で開催される「ABUスイム&ラン」で、スタート前のファンファーレとともに、選手が競技している間の約2時間近くを激励演奏しました。総合支援学校のサマーフェ

スタには有志で参加しました。

日頃、高校生や音楽の生演奏に触れる機会が少ない離島で、合宿&ミニコンサートができ
ないか、検討中です。



萩焼でお手前

茶道部

萩美術館のイベントや、着物ウィークでは菊屋家住宅で、お手前を披露しました。茶碗は著名な萩焼作家さんの作品で、手が震えました。



「萩高生と学ぼう学習会

@萩西中」に参加

放課後の学習支援に、文芸部、英語研究部、科学部などが、部活動の一環

として交替で、それぞれ、国語・英語・理科が得意な高校生？というふれ込みで参加しています。中学生にも好評です。



高校生は、すぐ明日の地域社会を担う存在です。そんな高校生の「真剣な姿」は、

中高生熟議@萩東中学校

萩高校では、例年、高P連のご支援を受け、2年生が熟議を行っています。今年度は、萩東中学校全2年生に、それぞれの学校運営協議会の委員を加え、本校の探究科2年生がファシリテーターを務める中高生熟議を11月19日に行い、県内の中学校教育研究会特別活動部会の先生方に参観していただきました。

お互いが1年生であった昨年12月から積み重ねてきた取組で、第一回は、「ふるさと・萩自慢」ふるさと・萩ってぶちすごい！」、第二回は「萩市の課題『交通・環境・施設・人口』について」、今回は、第三回熟議でグループごとに決めたテーマに基づいて「萩



地域の皆さんに、明るい未来を想像させ、元気づけ、地域そのものを元気にしていきます。萩高校の文化部は、そんな地域の元気づくりの大きな力になってくれています。小学生や中学生にとっては、将来に見通しをもつことにも繋がり、高校生にとっても、自分のためだけでなく、他の人のために笑顔で汗をかける経験は、人間的・社会的にも大きく成長させる貴重な経験だと感じています。

高校生が地域に勇気を与えています。

市への要望等」を熟議しました。

回を重ねる度に発表や話し合いが上手になっていく中学生。見学された先生方からは、「中学生の意見を上手に引き出そうとする高校生の姿に感心した」等のご意見をいただきました。

熟議を経験した彼らが大人になり、共にまちづくりの担い手になる日が、そう遠くない将来やってきます。

めざす未来

山口県立長府高等学校

なぎなた部顧問

嶋田

信子

本校は、美しい土堀の街並みや歴史ある寺社のある城下町長府の中にあり、今年創立111年を迎えました。以前は長い間女子高でしたが、平成15年度より男女共学になり、普通科から総合学科となつています。本校になぎなたを取り入れられたのは、平成3年のことで、教育課程の改定で体育に武道が取り入れられるのに伴い、柔剣道場が新しく建てられることとなりました。それを機に、当時の校長が、城下町にある女子高という特徴を生かし「日本古来からある唯一の女子武道であるなぎなたを取り入れてみよう!」ということで、本校でのなぎなたの取組が始まりました。まず建物ができ、そこで行う競技を選び、教員が学び、生徒が学ぶという順番で体育の授業で戦後県下初となるなぎなたが導入され、県内唯一のなぎなた部の活動も始まりました。



なぎなたは、もともと日本の長柄武器の一種で、平安時代に登場した武具です。牛若丸と弁慶の戦いのときに弁慶が持っていた長い刀、それがなぎなたです。現在、競技用のなぎなたとして使われているのは、檜木で作られた柄の部分と、竹で作られた刃先をつなぎ合わせた、長さ2m 15cmほどのものです。種目は防具をつけて決められた部位を互いに打突して勝敗を競う「試合競技」と、防具は身に着けず指定されたなぎなたの形を対人で行いその技を競う「演技競技」の2種類があります。

これまでの本校の主な戦績は、国民体育大会の演技競技で2度の優勝、インターハイで団体3位が2回、全国選抜で個人2位、団体3位というのが主な記録ですが、最近はずっと8の壁をなかなか破ることができず苦戦しています。

以前は試合に対して「勝たなきゃ意味がない」「勝たずして本当の達成感はない」「日本一にならないと見えない景色を見せたい」と、勝つことがすべてではないけれど、知らず知らずのうちに勝負を重視して選手も自分も追い込んでいたのでは



ないかと反省しました。なぎなたは老若男女、生涯をととして続けることができる武道ですが、卒業後に続けてくれる生徒はほとんどいません。ただでさえ少ない競技人口ですし、全国で入賞するまであと一步のところまで来ているのにやめてしまふ生徒たちに私もかなり気落ちしていました。考え方を少し変えてみることにしました。

今の私のこだわりポイントは、部員一人ひとりが社会に出て何を武器として生きていくのか、その大きな強みになるようなものを部活動とおして学んでほしいということ。それを軸に指導していく中で私が大事にしているものは、まずは、なぎなたが好きになるようにすることです。楽しくないとダメ、やらされているではダメ、自らの意志で強くなりたいと思えば、本気で取り組めると思えます。私の役割はそう思えるように、仕向けることだと思つて取り組んでいます。そして、それは自分だけの努力ではなくチーム全体で強くなることが必要で、そのためには、チーム内での妥協を許さない。練習の中では先輩も後輩もありません。気付いたことは何でも言える、そんなチーム作りに取り組んでいます。

また、競技特性上、相手の動き、特に武道特有の『氣を読む』ことは大変重要で、日常生活の中で常日頃から他人への気遣いが、当たり前にそしてさりげなくできるような指導をしています。この、「さりげなく」が重要で、「私頑張つてやってます」というのをさす「さつ」と「すつ」と動けることが大事です。たとえば弁当

を食べ終わったら「さつ」と弁当ガラが下げられ、お茶が「すつ」と運ばれてくる。過剰な気遣いは必要ありませんが、周りの人が何をしようとしていて、自分がどう動くか相手が気持ちよく過ごせるか、他人とどのくらいの間合いを取り、心地よい空間が作り出せるのか。この細やかな気遣いを相手に気付かれることなく行動できるかということが、なぎなたの試合の中で、相手の隙を見抜いて一本決めることができるという、色々な意味での視野の広さにつながると思うのです。まだまだ充分に実践できていませんが、このような人になりたいと私自身も心がけていることですし、先読みできる力は社会に出てきつと役立つことですから、どんなことより大事なことでと思います。

数年前、なぎなたの試合では良い結果は残せなかったものの、3年間よく頑張った生徒が、地元企業に就職しました。上司の方から、その生徒のことを「よく気が利くいい子ですね。誰かに言われる前に自分のできることを見つけて動ける」といって褒められた。また、つい先日、助産師になるという夢に向かって頑張っている卒業生が



らうれしいメールをもらいましたので一部紹介します。「いろいろな病院に実習に行かせていただき、行く先々で自分はまだまだだと反省する事が多いのですが、ありがたいことに御指導していただいた方々に「気が利く」「先を見て行動できる」という評価をしていただくことが多く、その言葉をいただくたびに、「これって部活動で学んできたことだなあ」としみじみ感じています。私の高校3年間は今の実習やこれから就職後の生活に関わる大きな成長の一つであったと、今更ながらただがむしやりに動いていただけの高

校生の自分に感謝しています。この評価に甘んじず、あと一歩足りないと感じている部分を捉え精進していきたいと思えます。」というメールでした。生徒が卒業後も頑張ったり、活躍したりしている様子を聞くことに大きな喜びを感じている今日この頃です。

出演予定でしたが体調不良のためご出演できなかった、松江市出身の佐野四郎氏のメッセージが読み上げられ、過去(2014年)に松江市で収録された公演が放映されました。情感あふれ、迫力ある語り口や演奏に時を忘れて引き込まれました。その後、放映された公演に佐野四郎氏とともに出演していた佐野氏の同級生であり、ミュージシャンとして活躍しておられる山本恭司氏による演奏があり、小泉八雲氏が描いた幽玄な怪談の世界を味わうことができました。

家の講師に加え、高校生や保護者、卒業生や地域の方が参加する分科会もあり、大会テーマである「ご縁づくり」の大切さを味わうことができます。



神楽「大蛇」 浜田商業高校郷土芸能部

第70回全国高等学校PTA連合会大会島根大会報告

令和3年8月25日(水)、第70回全国高等学校PTA連合会大会島根大会が、島根県民会館大ホールからオンライン配信により開催されました。

オンライン配信による全体会は、午前

中の半日の日程で行われました。配信の内容は、「スライド上映による参加各県の連合会の紹介」「開会式」「記念講演」「アトラクション」「閉



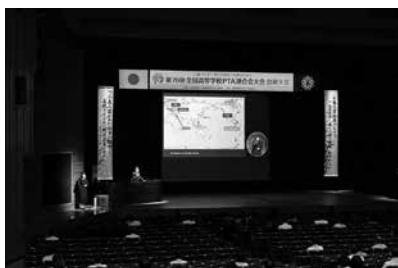
泉 満 全国高P連会長 挨拶

会式」でした。

「開会式」では、「優良PTA文部科学大臣表彰」「全国高P連会長表彰」の授与も行われました。

「記念講演」では小泉八雲の曾孫にあ

たる小泉八雲記念館館長の小泉凡氏による講演があり、小泉八雲の生い立ちや教育観などが紹介されました。続いて、本来ならばこ



記念講演 小泉 凡氏

「アトラクション」では、高校生による吹奏楽の演奏や神楽舞の披露がありました。



長崎の鐘「永井隆博士朗読劇」三刀屋高校演劇部

ひたむきで熱気あふれる演奏や演技で、大会の雰囲気が大変盛り上がりしました。大会が1年延長される中、大変な思いで迎えた本番、本当に素晴らしいと思います。午後からは、事前収録された6つの分科会の配信が行われました(配信は12月31日まで行われました)。各分科会では、最初に高校生によるアトラクションが行われ、演劇や神楽など、熱のこもった迫力ある演技には感動しました。続いて、基調講演や模擬授業、ディスカッション等が行われました。各テーマに関係した専門

【事務局からのお知らせ】

山口県公立高等学校PTA連合会ホームページから、これまでに発行された全国高P連会報、山口県高P連会報をご覧になることができます。

ぜひご覧ください。

(<http://ymg-kpren.jp/>)

【写真は、島根大会実行委員会提供】(高P連事務局)

(高P連事務局)